

司式 熊田雄二牧師
奏楽 豊島慶子姉妹

前 奏

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 14:1 ほめたたえよ造り主を

ほめたたえよ造り主を きよき御前にひれ伏し

ささげまつれ 身をもたまをも たぐいなき御名をあがめて アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書3 罪の告白②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならぬことをせず、してはならぬことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。主イエス・キリストの御名によって。

アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 72:1 心を高く上げよ

心を高く上げよ 主の御声に従い、

ただ主のみを見上げて 心を高く上げよ アーメン

共同の祈禱 祈禱書5 使徒信条

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。

われは、その独り子、われらの主イエス・キリストを信ず。主は、聖霊によりて宿り、おとめマリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを審きたまわん。

われは聖霊を信ず。聖なる共同の教会、聖徒のまじわり、罪の赦し、からだのよみがえり、としえの命を信ず。 アーメン。

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 中会伝道活動 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書11章14～26節 (新約聖書128頁)

説教・祈禱 「神の霊と悪の霊」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 59:1 わが行く道いついかに

わが行く道いついかになるべきかは つゆ知らねど 主は み心なしたまわん

備えたもう 主の道を 踏みてゆかん ひとすじに アーメン

* 主の祈り 祈禱書1

天にましますわれらの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 68 あまつ御民も地にある者も

あまつ御民も地にある者も 父・子・御霊の

神をたたえよ 神をたたえよ アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 門脇陽子長老 (司会・受付 次週: 雨宮信長老)

本日 受付 1階: 星野房子執事 2階: 那珂信之執事 / 動画: 門脇光生兄弟 録音: 番場駿也兄弟

次週 受付 1階: 加藤良明執事 2階: 森永美保執事 / 動画: 森永翔馬兄弟 録音: 門脇光生兄弟

※ 2グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります

I 癒しの出来事をめぐる群衆の反応

悪霊に取りつかれて口の利けない人（マタイ：目が見えず口の利けない人）が、イエス様に癒されました。群衆は驚嘆しましたが、マタイによると、群衆の中にはユダヤ教律法主義のファリサイ派も混じっていて、またまた論争の火種になったというのが、きょうの話です。

口が利けない人は、「口を利けなくする悪霊」に取りつかれていたもので、イエス様は悪霊を追い出しました。すると、「口の利けない人がものを言い始めたので、群衆は驚嘆」しました。今まで訳の分からない音を出していたのに、訳の分かる声を出し始めたので、「群衆は驚嘆」したのでしょう。口が利けない状態で何かものを言おうとすると、不気味な音がします。それがいきなり、分かる言葉をしゃべり始めたのですから、群衆は目を丸くしたことでしょう。その驚嘆には、共に喜ぶ嬉しさと、神への讚美が入っていたことでしょう。

ものが言えること、すなわち、言葉こそ、人間の人間たる原点です。アダムは鼻に神の息が吹き込まれると、生き生きした者になりました。神の息が意味する霊、魂、心は、言葉で活動します。神はアダムの所にいろんな動物を連れて来られましたが、動物ではダメだと分からせました。言葉でコミュニケーションができるエバでなければダメでした。

人類最初のラヴソングは、神がエバをアダムのところに連れて来られた時です。父親が花嫁を花婿に手渡すように、神がエバをアダムに手渡されると、アダムの口が開いたので、人類最初の言葉は「愛の歌」でした。「これこそ、私の骨の骨、肉の肉」とアダムは歌いました。

しかし、アダムが悪魔の誘惑に負けた時から、人は皆アダムの子孫で、何らかの形で悪魔のとりこになってしまいました。だから、新約聖書のこの場面に出てくる、口が利けない人だけが悪霊に取りつかれているのではありません。神が天から人をご覧になれば、キリストを必要としないほどの善人はいません。悪霊は、人の霊に取りついて魂に入り込んで来ます。だから心を汚すのです。汚れた心は汚れた言葉を出します。

さて、イエス様がこの人をいやされると、ものが言えるようになったのですが、これに対する群衆の驚きは、マタイによると、「この人はダビデの子ではないだろうか」、すなわち、「この人がキリストではないだろうか」と言い始めました。

これが広まっていくと、ファリサイ派は、あせってしまいます。何かものを言わなくてはならない状態になりました。何か言わないと、イエスのうわさは、波紋のように広がっていきます。ですから、この場面、彼らはイエス様に詰め寄って試そうとしましたが、実はイエス様によって言わされたのです。彼らをも悪霊をも支配しておられるのは、イエス様でした。

II ファリサイ派の挑戦とイエスの答

ファリサイ派は、悪霊が追い出されたことは認めました。しかし、事実を認めながら、苦し紛れに悪い解釈をしました。「あの男は悪霊の頭ベルゼブルの力で悪霊を追い出している」。ベルゼブルは、バアル・ゼブルが原型であるなら(新共同訳聖書辞典)、「いと高

きバアル」という意味ですので、いかにも悪霊の頭らしい名前です。

彼らの悪知恵に対してイエス様は言われました。「サタンがサタンを追い出すというバカなことではない」と。18節はそういうことですね。「あなたたちは、私がベルゼブルの力で悪霊を追い出していると言うけれども、サタンが内輪もめすれば、どうしてその国は成り立って行くだろうか。」 朝鮮半島もベトナムも、南と北に分かれて内戦を起こせば、背後にそれぞれ大国からの武器が届いて、大国の代理戦争になりました。

ちょっと分かりにくいのは19節の「仲間」です。「私がベルゼブルの力で悪霊を追い出すのなら、あなたたちの仲間は何の力で追い出すのか。だから、彼ら自身があなたたちを裁く者となる。」 これが、「私がベルゼブルの力で悪霊を追い出すのなら、あなたたちは何の力で追い出すのか。」というのだったら、少し分かります。「私イエスがベルゼブルの力で悪霊を追い出すのなら、あなたたちファリサイ派は何の力で追い出すのか。」 「律法主義の善行苦行で追い出すのか。」となります。

ところが、「あなたたちファリサイ派」ではなく「あなたたちの仲間は」です。ファリサイ派の仲間はファリサイ派でしょう。「ファリサイ派の仲間ファリサイ派は何の力で追い出すのか」では、意味不明で変です。そこで「仲間」という言葉を直訳してみると、「子供たち」(hoi huioi)です。実は、ファリサイ人たちは、群衆を自分の子供たち「ファリサイ派チルドレン」と思っていたのです。その子供たちがイエス様を「ダビデの子、メシアではないだろうか」と言い始めたのですから、さあ大変。

「だから、あなたがたが自分の子供たちと思っている群衆、彼ら自身があなたたちを裁く者となる。」と、主イエスは言われました。彼ら群衆は、イエス様の驚くべき救いのわざを見て、それをメシアのしるしと見て、イエス様を「ダビデの子ではないか」と言ったからです。

すなわち、イエス様の御わざは、悪霊ではなく神の霊によります。だから、イエス様は「神の指によって悪霊を追い出している」と言われました。「神の指」と言われると、律法が専門のファリサイ派は穏やかではられません。律法の中心、十戒は、神の指で石の板に刻まれたからです。出エジプト記32：16「その板は神御自身が作られ、筆跡も神御自身のものであり、板に彫り刻まれていた。」申命記9：10「主は、神の指で記された二枚の石の板を私（モーセ）にお授けになった」。

「私が神の指によって悪霊を追い出している」とは、最低でもイエス様はモーセに等しいと言っておられます。最高では、私は神に等しいと言っておられるのです。確かに、イエス・キリストは、悪霊の支配を追い出して、神の霊の支配を確立しようとしておられます。だから、イエスがキリストとして行なわれたわざによって、「神の国はあなたたちのところに来ているのだ！」と言われました(20節)。「神の国」の支配が悪霊の支配を追い出して、あなたがたに迫っているのだと。

23節は、ファリサイ派へのはっきりとした宣言です。「私に味方しない者は私に敵対し、私と一緒に集めない者は散らしている。」ファリサイ派は明らかにイエス様に味方しないで敵対しています。イエス様が集めた群衆を散らそうとしています。主イエスと共に集めない者は、「散らしている」。私たちはイエス様と共に集めているのでしょうか？

マタイ福音書では、もう一つ、重大なことを言うておられます。「聖霊に対する冒瀆は、この世でもあの世でも赦されない」という、あの恐ろしい言葉です。この場面での恐

ろしい罪は、神の霊を悪霊と言った罪です。この場面で起こった事実は、神の霊が悪霊を追い出して口の利けない人を救ったという出来事でした。救われた人の心には、神とメシアに対する感謝と信仰が起こっています。人の心に信仰を起こすのは聖霊の働きですから、聖霊を悪く言う者には決して信仰が起こらない。だから救われようがないという、当然の理屈です。

Ⅲ 聖霊の仲間になろう

24節からの「汚れた霊が戻って来る」という小見出しの段落は、ダメ押しのような警えです。

特に説明は必要のない警えなのですが、というより、警えは分かりやすく説明するためのものですから、元来、説明はいらないものです。それで不必要な説明をすると、かえって分かりにくくなる場合があります。それが、このケースです。

ここに「七つの霊」という言葉が出て来ます。汚れた霊が「自分より悪いほかの七つの霊」を連れて来たということですから、レベルの高い悪霊たちということになりますが、この「七つ」とはどんな悪霊だろうか？ 「七つの悪霊を追い出していただいたマグダラのマリア」と関係あるのだろうか？（ルカ8：2）とか余計なことを考え始めて「七つの悪霊」を説明しようとするケースがあります。そして、これだけを取り出して作り話を作って、さらに映画を作ったりするようになります。イエス様が警えで説明なさったことから、どんどんどんどん離れて行きます。

七つが分からなければ数えない方がいいのです。「悪霊によって悪霊を追い出す」などとイエス様に悪口を言ったらどうなるか、皮肉を込めて言っておられるのです。「悪霊様たちいらっしやい」ということになると。むしろ、きょうのテキストで私たちが考えるべきは、私はイエス様によって悪霊を追い出してもらう必要はないのか、という点です。

アダムとエバの原罪を受け継いでいる者は、皆、サタンの支配下にある、霊的死人です。神に対してまともにものを言えない、まことの言葉を失った者です。私たちも霊的には「悪霊に取りつかれて口の利けない者」です。だから、主日ごとに、キリストは「私のもとに来なさい」と招いてくださいます。私たちの心から悪霊を追い出して聖霊を入れようとしてくださいます。キリストの霊なる聖霊が入ってくださると、私たちの心の中で神の国が始まります。

「神の国はあなたがたのところに来ているのだ」と言われた通り、ここも神の国です。教会は地上の神の国の都です。私たちの心は聖霊の宮とされます。神の言葉が語られるのを聴いた魂は、聖霊の宮として祈りや讃美の言葉を口から出します。このように、救い主は、心をいやして心の口を開いてくださいました。罪赦されて、新しい命をいただいて神の子らとされたら、父なる神にものを言い始めることができるようにされます。この新しい力は、私たちを、主イエスといっしょにキリストの羊を集める者とする力でもあります。

この世は、エデンの園から現在に至るまで、ますます、どんどん悪霊の支配下に落ちていくかのようです。地球の現状を思うと暗くなりますが、信仰の心で観れば、全地を支配しているのは創造主と救い主キリストの霊です。全歴史を貫いているのは、神の恵みと裁きです。しかし、神は、確かな救いをこの世に与えてくださいました。